

令和5年3月7日に都立新宿高校で地域防災訓練を行いました。1年生全生徒は通報訓練など災害時個人が必要とする技能を習得する訓練を、2年生の一部生徒は避難所設営時に必要な訓練をさせていただきました。ここでは1年生の訓練を、1年生防災委員の視点から振り返ります。

1, 起震車体験

最も多くの防災委員が、1番印象に残った、役に立つと思ったと回答した訓練です。地震の恐ろしさを感じたから、全員が体験できたからといった理由が挙げられました。

2, ロープ結索訓練

ロープの結索方法という技術を習得できたという点で役に立つと多く回答されましたが実際に使うような場面はあるのかと疑問を持ったという意見がありました。次年度の訓練では生徒に現実味を持って訓練してもらうため、棒ではなく実際の物を結束することも必要だと考えます。

3, AED 訓練

実際に使える技能だと思ったから、一度体験して実際に倒れた人に使うときの自信になると感じたからといった理由で役に立つと回答されました。しかし、体育の授業のAED体験の内容と被る部分が多く、乳幼児の人形を用意し大人との使用方法の違いを確かめる、人工呼吸の仕方を学ぶなどプラスαの体験ができると更に良いと考えます。

4, 煙体験

煙の危険性に関する消防士の方の詳しい説明が聞けたから、煙ハウスの中が入り組んでいて本物に近い進みづらさを感じられたからという理由で役に立つと回答されました。

5, 通報訓練

緊急時焦らず通報するために通報の仕方を学ぶことができよかったという声があった一方、時間制限で一部の人が体験できない、危機感が足りないといった意見も挙げられました。時間の制限はついてしまうため全員が通報を体験することは難しいですが、倒れている人役を作る、助けを呼んでいる人の役を作るなどの対応で、危機感を演出し参加人数を増やすことができると考えました。また、保健の授業などで学び、知っていることが多かったように感じられたので、#7119、#8000、災害用伝言ダイヤル171など、初見の内容を盛り込む必要があると考えます。

6, 食事配給訓練

主体的に動いた訓練だったという声もありましたが、それ以上に一部の人が運んだだけだったという反省が多く挙がりました。ミッションを増やすなどの工夫が必要です。今回は事前告知をしてしまい、役割分担までしっかり決めてから訓練に臨んだクラスもあったようで、事前告知をせずに本番の緊迫感を味わえると訓練が有意義になると考えます。

7, 担架搬送訓練

この訓練に関する意見はほとんどなくあまり印象に残らなかったのではないかと思います。人形ではなくクラスメイトを消防士の方の補助付きで実際に運ぶなどの工夫で生徒の記憶に残る訓練にするべきだと考えます。また、本当に災害が起こったときに、平坦でまっすぐな道で運ぶ状況は考えにくく、曲がりにくい角を曲がる、障害物をいくつか置くなど実際の状況に近づけた訓練にすると更に良いと考えます。

まとめ

今回、消防署および新宿区の方々のおかげで貴重な経験をすることができました。普段できないことがたくさんでき、災害時に取るべき行動についてひとりひとりが考えるきっかけになりました。今後の防災訓練は、全員が参加できるか、新しい知識を得られるか、災害時の活用方法をイメージできるかを主な視点として改善が必要だと考えました。